

第3回地域フォーラム

村のうちとそとから多世代が集う ふれあいの郷（まち）づくり

令和4年11月5日

上北山村長 山室 潔



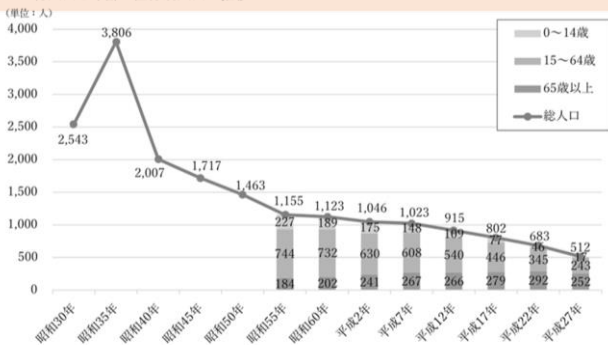
上北山村の現状

人口減少

令和4年10月1日時点の人口: 458人

直近3年間(R1年度～R3年度)では、
年間平均増加数: 29.0人 (出生、転入)
年間平均減少数: 36.7人 (死亡、転出)

■ 総人口と年齢3区分別人口の推移



マンパワーの不足

高齢化の進展

令和4年10月1日時点の
65歳以上人口: 224人 (約48.9%)
(70歳以上は人口の約40.3%)

人口の約半数が65歳以上



高齢化が著しく進展すると
マンパワーの不足が懸念される

雇用の場・機会の減少

基幹産業であった林業が、
近年担い手の減少等の影響
により衰退が著しい。



写真は現在の製材所

人口減少の進展

マンパワーの不足

地域の経済の低迷

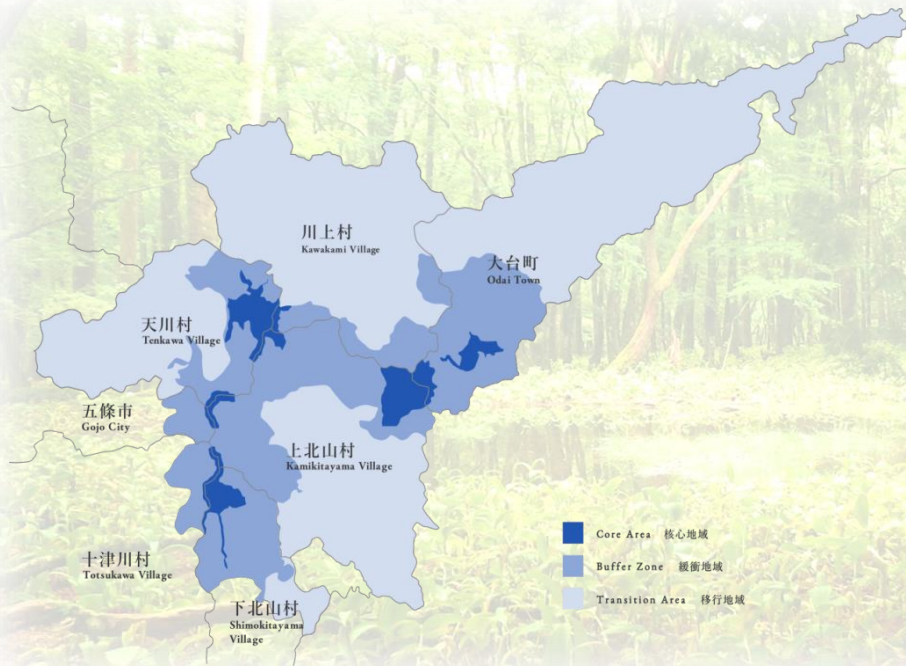
雇用の場・機会の減少

住民の生活基盤の低下

上北山村の自然

「大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク」

本エコパークの核心地域である大台ヶ原は見事なまでに美しい生態系が保たれている、原始的な自然が息づいている。



日出ヶ岳



かくれ滝



大普賢岳



千尋滝



ナメゴ谷 紅葉



上北山村の目指す方向性

上北山村が目指すべき方向性

大自然の恵みを活かした
観光を基軸とした新たな産業
基盤の構築

広域的視点からの**観光**
まちづくりの推進

住民と行政、住民同士の
連携・協働による一体的な
環境整備・仕組みづくり



地域経済の活性化、
関係人口の増加から
移住・定住の促進

まちづくりのコンセプト

基本目標

目標1
滞在拠点としての機能充実

目標2
村の玄関機能の強化

目標3
広域的な観光コンテンツとの
連携・強化

目標4
地域住民と来訪者が関わる
仕組みづくり

目標5
新たな誘客の推進

目標6
地域産業の活性化

目標7
安心して暮らせる環境づくり

村のうちそとから多世代が集うふれあいの郷(まち)づくり

具体的な取組み

- 1-1 「旧 上北山温泉 薬師湯」跡地の整備・活用
- 1-2 水辺空間の管理・利活用推進
- 1-3 森林ファミリーパークの再整備（散策路の補修・植栽の管理等）
- 2-1 道の駅駐車場のリニューアル
- 2-2 やすらぎ橋の補修・魅力化
- 2-3 シーズン中の駐車場対策
- 2-4 道の駅の活用促進
- 3-1 河合地区から大台ヶ原・大峯奥駈道等への登山コースの整備
- 3-2 周辺の観光拠点と結ぶバス等の運行
- 3-3 新たな魅力の掘り起こし・開発（冬の大台ヶ原ツアー、自転車周遊コースなど）
- 3-4 観光拠点や体験プログラムとの連携強化（温泉割引など）
- 4-1 地域内の資源を活かした体験プログラムの開発・充実
- 4-2 集落内への回遊性の向上
- 4-3 森の案内人（インタープリター）や歴史等の案内人の育成
- 5-1 とちの木センターの合宿の誘致
- 5-2 村外への地域情報発信強化
- 6-1 宿泊施設や商店・飲食店等の連携強化
- 6-2 林業資源の活用
- 6-3 新たな産業の創出（起業支援など）
- 7-1 移動交通手段の強化（デマンドバスの運行など）
- 7-2 空き家等を活用した移住促進
- 7-3 子育て環境の充実・体制づくり
- 7-4 「ワースリビングかみきた」の遊休空間を活用

観光立村

上北山村の発展には観光コンテンツの充実が不可欠

これまでに進めてきた施策

スポーツツーリズム

ヒルクライム大台ヶ原since2001

9月



地域住民が集まり力を合わせて準備をし、応援し、一丸となって作り上げてきた自転車のヒルクライムイベント。これまで計18回開催しており、毎年全国各地、海外から800人以上が上北山村に集う。
※直近3年はコロナの影響により中止

平成26年より実施しているハーフマラソンイベント。老若男女が集い、走り、大自然や人とのふれあいを、純粋に楽しむことができる。
※直近3年はコロナの影響により中止

大台ヶ原マラソンinかみきた

5月



観光拠点整備

フォレストかみきた



令和2年5月にリニューアルオープン。村及び区長会で設立した「一般社団法人 ツーリズムかみきた」が運営を行う。村の中心部に位置し、誘客の大きな役割を担っている。オープン以降、年々宿泊者数が増加している。

平成30年3月にコンビニを導入。フォレストかみきたと同様に村の中心部に位置し、観光客の多くが立ち寄る施設でありながら、村民の生活を支える施設の1つでもある。

道の駅吉野路上北山



和佐又山全体整備計画

令和5年度開業予定

和佐又山周辺地域

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産である大峯奥駈道にある大普賢岳への登山口となっており、登山愛好家に親しまれている。

令和元年12月までは、地元所有団体において、スキー場やヒュッテ、ロッジの運営がされていたことから、登山客だけでなく、スキー客やキャンパーも多く訪れていた。

和佐又山全体整備計画

大きくターゲットは転換せず、元々の方向性をしっかりと伸ばす。

目指すべき姿

- ①簡素ではあるが、上質な空間をつくる
- ②ありのままの自然を感じる
- ③持続可能な施設整備・運営を目指す

整備の方向性

- ・ **ヒュッテ建替え**により、ニーズに対応した施設への変更
- ・ 統一感のあるデザイン、**写真映えする施設・スポット整備**
- ・ 環境への配慮や自然を残す
- ・ オートキャンプサイト横に清潔感のあるトイレ・炊事場の整備
- ・ 効率的管理実現のためのオートキャンプサイト及びWEBの整備
- ・ イベント実施を想定した設備

運営

一般社団法人ツーリズムかみきた

➡ 持続可能な雇用の創出とホテル等を含めた施設の一体運営による経営ノウハウの蓄積に期待



WASAMATA HUTTE完成イメージ図



ツリーデッキ（令和3年度整備）

大台ヶ原冬期利用計画

大台ヶ原登録ガイドモニターツアー

上北山村の冬の観光振興を目的として、令和元年度より試行的に実施している冬のガイドツアー。奈良県等の関係機関にご協力いただきながら実施。

冬期の上北山村中心部

・登山や釣り・川遊びなど主とする観光客が少なく、併せて国道の交通量も減少する。→冬の観光コンテンツが不足

冬期の大台ヶ原

・高標高の山岳域で降雪量が多く、冬期の入山のニーズが高い。
・冬期は大台ヶ原ドライブウェイが通行止めとなるため、一般的には入山ができない状況。

ツアー概要

- ・冬山のガイド資格「登山ガイドステージⅡ」以上を有する「大台ヶ原登録ガイド」がツアーを実施。
- ・大台ヶ原の雪景色を楽しむことができる唯一のツアーであり、奈良県内で唯一と言っても良いほどの雪景色を堪能できる。
- ・村が手配する車両で早朝に道の駅吉野路上北山を出発するため、ツアー客は村内の宿泊施設で前泊をする。

開催時期

1月下旬～2月中旬

安全配慮

前日夕方及び当日早朝に道路状況及び天候を確認し、ツアー実施判断を行う。
※ツアー実施不可と判断した場合は和佐又山にツアー先を変更し対応。



昨年度のツアーの様子

今後の展望

観光立村 1年を通じた観光コンテンツと観光後のおもてなしの充実



地域経済の活性化、関係人口の増加から移住・定住の促進

村のうちそとから多世代が集うふれあいの郷（まち）づくり

ご清聴、ありがとうございました。



上北山村